

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成28年11月4日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科 肝胆膵・移植外科

職名・学年 博士課程4年

氏名 奥村 晋也

助成の種類	平成28年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成		
研究集会名	第38回欧州臨床栄養代謝学会議 (The 38th ESPEN Congress 2016)		
発表題目	肝内胆管癌切除症例において、術前骨格筋量・筋肉の質・内臓脂肪が予後に与える影響 Impact of skeletal muscle mass, muscle quality, and visceral adiposity on outcomes following resection of intrahepatic cholangiocarcinoma.		
開催場所	デンマーク コペンハーゲン International Bella Center		
渡航期間	平成28年9月16日 ~ 平成28年9月21日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円	
	使用した助成金額	35,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳	学会参加費(一部)	80,000円
		宿泊費(一部)	100,000円
		航空費(一部)	160,000円
その他、現地交通費などの一部		10,000円	
当財団の助成について	貴財団のこの度のご厚意により、国際学会発表を通じて多くの研究者と討論することができ、様々な貴重な意見を得ることができました。世界各国の臨床栄養学の権威の発表を目の当たりにし、貴重な知見を得られたと共に、今後の臨床・研究への活力を得ることができました。本学会で発表した内容は、その後、本学会で得られた知見も加味して論文投稿し、外科腫瘍学の主要雑誌であるAnnals of surgical oncology誌に掲載されました。すぐれた研究成果を出しているにもかかわらず資金面の理由から国際学会発表が不可能な、研究資金の乏しい若手研究者にとって、貴財団からの御助成は非常に貴重であり、今後もより多くの若手研究者が国際学会での発表の機会を得られることを切に希望いたします。この度は、貴重な御助成をいただきまして、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。		

【学会概要】

学会名：第 38 回欧州臨床栄養代謝学会議

The 38th ESPEN Congress 2016

(The European Society for Clinical Nutrition and Metabolism)

開催地：デンマーク コペンハーゲン International Bella Center

開催期間：平成 28 年 9 月 17 日～20 日

渡航期間：平成 28 年 9 月 16 日～21 日

【学会内容】

欧州臨床栄養代謝学会（ESPEN）はヨーロッパ圏の栄養代謝学会の最上位に位置づけられる国際学会であり、国際研究集会が毎年開催されている。世界各国の癌治療・手術治療・栄養療法・リハビリ療法に携わる医師・栄養士・理学療法士・看護師等が参加し、国際学会の中でも有数の規模を誇る。学会では最新の臨床及び基礎研究について報告され、消化器外科医・肝胆膵外科医もその中心的役割を担っており、栄養療法・リハビリ療法と手術治療・薬物治療を組み合わせた外科治療の発展に大いに貢献している。

学会は、デンマーク最大規模の国際会議場であるコペンハーゲン International Bella Center で開催され、ヨーロッパ各国、日本、アメリカ合衆国、カナダ、中国、インド、韓国などから 3000 名以上の学会参加者があり、活気に包まれていた。世界各国の栄養学の権威の基調講演や、教育講演、若手研究者の優秀演題発表は 1000 人以上収容可能な中央アリーナで行われ、最新の知見を得ることができた。ポスター会場では臨床栄養の様々なトピックスについて、多数の発表が行われており、私の今回の発表のテーマであるサルコペニアについても世界各国の演者による発表が行われており、大変刺激になるものであった。

【発表内容】

今回、私は、筋肉量の低下および質の低下（サルコペニア）、および内臓脂肪型肥満が、予後不良な疾患である肝内胆管癌において予後不良因子であることを発表した。発表のタイトルは、「肝内胆管癌切除症例において、術前骨格筋量・筋肉の質・内臓脂肪が予後に与える影響 Impact of skeletal muscle mass, muscle quality, and visceral adiposity on outcomes following resection of intrahepatic cholangiocarcinoma」であった。

サルコペニアは筋肉量の低下と筋力の低下と定義され、種々の外科手術後予後不良因子とされている。また、内臓脂肪優位の体脂肪組成も種々の疾患で予後不良因子と考えられている。しかし、これらの因子の肝内胆管癌における意義は明らかではなく、今回、術前骨格筋量と筋肉の質および体脂肪組成に着目し、肝内胆管癌切除症例における術前サルコペニアと体脂肪組成の意義について検討した。対象は 2004 年 4 月から 2015 年 7 月までに肝内胆管癌に対して切除術を施行した 109 例（男性 67 例、女性 42

例)で、骨格筋量と筋肉の質、体脂肪組成は、各々術前単純 CT にて評価した。結果は、筋肉量の低下群、筋肉の質の低下群、内臓脂肪型肥満群でそれぞれ術後全生存率が有意に不良であり、術前骨格筋量の減少と筋肉の質低下は、多変量解析にて、多発病変・リンパ節転移と共に肝内胆管癌術後の独立予後不良因子であった。

発表では、術前にサルコペニア患者およびサルコペニア肥満患者を適切に抽出し周術期に積極的に栄養・リハビリ療法で介入することにより予後の改善が期待される可能性についても言及し、各国からの参加者と、悪性腫瘍患者における栄養・リハビリ療法についての議論を行うことができた。他国からの発表では、まさに我々が今後進めようとしている術前術後の栄養介入についての具体的な試みについても発表されており、今後我々が臨床成績向上のための取り組みを進めるにあたって、参考になることが多かった。

なお、本発表で得られた知見も含め、今回の発表内容を英文論文投稿し、先日、外科腫瘍学の主要雑誌の一つである *Annals of Surgical Oncology* 誌に掲載されることが決定となった。このような主要雑誌に論文掲載されることになったのも、今回の貴財団からの助成により国際学会での発表が可能となったことによる恩恵が大きいと、心より感謝しております。今後の自身のさらなる研究に、本学会で得られた知見を活かしていきたいと思う。

【その他】

学会会場には、日本からの演者も多く参加されており、日本の他大学・多施設の方々とも交流を深めることができ、有意義な経験となった。来年もぜひ国際学会で共に発表しましょうと、大いに盛り上がった。

【謝辞】

最後になりましたが、今回の国際学会への参加助成をしてくださり、このような貴重な発表の機会を与えてくださった京都大学教育研究振興財団に心から感謝申し上げます。費用の補助がない大学院生等の若手研究者の国際学会参加に、大変ありがたい制度であると思います。本学会参加で得られた知識をもとに、より自身の研究を発展させ、京都大学、そして日本の医療の発展に還元できるよう、さらに努力していく所存です。貴財団の益々の発展をお祈り申し上げます。